

島根県知夫郡浦郷村立青年學校

附 郷 土 調 査
隱岐島水產業概況

本校經營の概要

十一年八月一日

特 216
686



* 0043668000 *

0043668-000

特 216-686

本校經營の概要

島根県知夫郡浦郷村立青年學校

昭和 11

AHE

木村農業中等学校 年報

目次

B	本校生徒の一般的的特質	17
A	本村の特殊的状況	11
1	地理的状況	11
2	歴史的状況	8
3	經濟的状況	7
4	社會的状況	6
H	在營短縮	6
G	賞	5
F	學期及休業日	2
E	教授季節	1
D	教授及訓練課程並時數	1
C	入學資格	1
B	A修業年限	1
A	二、組	1
一、沿革	組織	1

課程終了及卒業認定標準時間表

C 1 身体的方面

2 精神的方面

C 一般基礎調査要項

1 郷土調査

2 本村各種教化團体との連絡

3 小學校教育との關係

4 生徒調査

四、學校經營の實際

A 本校の使命

B 本校の教育方針

C 校訓

D 教授及訓練

E 各科教授の方針

F 一般教授及訓練機會

G 特殊的教授及訓練機會

H 教授及訓練の場所

I 養護

J 調査

18

11

19

19

19

20

20

19

19

19

22

23

24

24

H 管理 2 施設 1 方針

- 1 生徒の就學及出席の獎勵
- 2 家庭連絡會
- 3 設備の完成
- 4 諸表簿

G 教授細目

普通科第一年

全 第一年	82	77	69	63	55	48	35
全 第二年							
本科 第一年							
全 第二年							
全 第三年							
全 第四年							
全 第五年							

隱岐島水産業ノ概況

一九二九年十一月四日
農林省水産試験場
監修
農林省水産試験場
監修

		面積		地反別地價		面積	
		二三方里六七海岸線		七四里一二五町廣袤		南北一〇里區劃	
		八反別地價		一五、六五二		一四、一二二	
合	免	官	有	反	別	賃	村數
租	免	有	地	反	別	貸	價格
年	租	其	山	田	地	地	一
期	計	他	林	地			
計	地						
一四一、三七八	九七八			三九、六九四		二八四、八四二	一
三四四				二、三五二		九一、五四七	
				八一、七二四		六一、九二七	
				一四〇、三六六		四四、一二三	
				九四四		四五、一九九	
						五五七	
						四八二、九九九	
						四八二、九九六	

隱岐は所謂日本海の孤島にして四面は渺茫たる海洋に囲繞せられ海岸の出入多くその延長七十四里に達す而も寒暖二潮流の影響を受け森林は至る所に繁茂せりこれ等種々の状態は悉く有用水族の蕃殖に適せるを以つて水産物の種類及び產額は極めて豊富なり。又港灣浦津に富み灣内は水深くして漁船の出入繩縄に便利なるが故に斯業發達の條件は充分整備せりと雖も相當浩博なる耕地を有し耕作に從事する者多く職業構成は統計上農業者五九%に對し水産業者は僅か一三%に過ぎざる狀態なり。農業者と雖も盛漁期に入れば鉤を捨て漁業に從事す、即ち半農半漁を營む者なり。されば事實上水産業者の數は多しと言はざるべからず。而して各種産業の生産額を調べるに總額一二、七二一、一九三四に對し農産は其の五〇%にして水産二四%なり。從事者に比較して生産額の夥しく大なるを知る時島民は當然地理的環境に即し水産王國の建設に努力を要す。

一 土地及戶口

- | | |
|---------------|-------|
| 一、土地及戸口 | 59 |
| 二、水産業者 | |
| 三、漁船 | |
| 四、主なる漁業 | |
| 五、遠洋漁業 | |
| 六、主なる漁獲物 | |
| 七、主なる製造物 | |
| 八、蕃殖保護及漁業取締狀況 | |
| 九、水産設備 | |
| 一〇、漁業組合 | |

八、蕃殖保護及漁業取締狀況

1 增殖施設

磯掃除

蝶蝶轉換（菱潤、知天、清月）

取締規則

島根縣漁業取締

本島周圍三哩以內機

九水產設備

魚市場（西郷、五箇、福井、美田、浦郷、知夫）

貯冰庫（西鄉、加茂、五箇、知夫、浦郷、津戸）

製冰場（西鄉）

冷藏庫（西鄉）

蓄養場
(西鄉)

繩貯藏乾燥、染色修理編裁場
（浦鄉）

共同製造加工場（浦郷、印夫）

卷之三

卷之三

一町村區域組合四……地先專用漁業權附與（西郷、布施、知夫、浦郷）

◎海膽獵に就いて

海驢は形態脛肭獸に似たれども著しく強大なり。牡は四、五米に達し牝は其の半に過ぎず毛色暗褐色にして蒼白色の斑紋あり全身刺毛を蒙り綿毛少し、一夫多妻にして春季生殖す。専ら魚族を常食とす。よく岩礁上に限るも此際一頭は必ず監視の任に當り人類又は危險身に迫れば鹿鳴を發して相戒め水中に遁れ去る。臭覺非常に發達しよく遠隔の地よりこれ等の接近を感じて海驢を捕獲するには三分乃至五分徑のマニラローブの網を造り之を海驢の休息せる岩穴の口に張り捕獲す。前述の如く臭覺發達のため漁夫の接近を知るを以つて風向穴口の反對にある時にのみ獵獲し得るなり。

